



〈「時代衣装を着てみよう!」の様子〉

ゴールデンウィークまほろんまつり

5月3日(金)から6日(月)までの4日間、恒例の「ゴールデンウィークまほろんまつり」を開催しました。今年も、たくさんの体験メニューを用意し、期間中に合計で1,300人を超える大勢のお客様にご来館いただきました。

まほろんを代表する体験活動の「火おこし体験に挑戦!」は、ゴールデンウィークでも大変な人気でした。「舞ぎり」による火おこしでは、家族や友人、時には職員と一緒に、力を合わせてほとんどの方が火おこしに成功。最終日の6日には、棒1本で火をおこす「まほろん“もみぎり”ファイヤー!」を行い、家族みんなで力を合わせて見事5組が成功しました。

野外広場で行った「弓矢体験」では、動物が描かれた的に矢が当たるたび、大きな歓声が上がりました。また、普段は見ることのできない一般収蔵庫内を見学する「バックヤードツアー」も、連日大勢のみなさんに参加していただき好評を博しました。

このほか、まほろんオリジナルの紙かぶとをつくれる「紙かぶとをつくろう!」や、「缶バッチをつくろう!」、「わたあめづくり体験」、「時代衣装を着てみよう!」、「植物観察ツアー」、「かみしばい上演」、「アンギン編みの実演」、「まほろんオリエンテーリング」など、多くのメニューを用意し、連日、館内が賑わいました。盛りだくさんの内容に、「30分の滞在予定でしたが、楽しくて3時間もいました!」というお客様もいらっしゃるほどでした。

体験学習

実技講座「土器づくり初級編Ⅰ」

5月11日(土)と6月22日(土)の2回にわたり、実技講座「土器づくり初級編Ⅰ」を開催しました。

まほろんには福島県内より発掘された土器が多数収蔵されており、それら本物の土器を見本として土器の作り方を学ぶ講座を開講しております。今回の講座では、とくに初心者を対象とし、館収蔵の縄文土器を観察しながら、土器に関する基本的な知識の習得と製作および野焼きを行いました。

なお、11月9日(土)と12月14日(土)にも、初心者向けの講座「土器づくり初級編Ⅱ」を開催します。ぜひ、ふるってご参加ください。



＜土器づくりの様子＞

夏のまほろん

まほろんイベント「まほろん夏まつり」

日時：平成25年7月28日(日) 10:00～15:00

「まほろん夏まつり」は、イベントを通してまほろんを知っていただき、さらに文化財に対して親近感を得てもらうことを目的として行います。

メニューは弓矢・やり投げ・火おこしの3種目を体験し、その総得点を競う「まほろんカップ」や自分でつくるかき氷体験などを予定していますので、みなさんのご来館をお待ちしています。



＜昨年の「まほろんカップ」＞

「まほろん森の塾」

「まほろん森の塾」は、年間を通して古代の暮らしの知恵を楽しく学ぶ体験学習です。第13期となる今年度は、小学4～6年生の7名が塾生としてさまざまな活動を行います。日程と体験メニューは以下の通りです。

- 第1回 5月19日 結団式 大昔の土器をつくろう
- 第2回 6月22日 那須の古墳を調べてみよう
土器の野焼きをしよう
- 第3回 7月13日 那須の古墳を探検してみよう
- 第4回 9月21日 那須の古墳探検発表会
- 第5回 10月19日 古代の料理をつくろう
- 第6回 12月14日 古代の装身具をつくろう 解団式

今後の活動内容は、随時ホームページやまほろん通信で紹介しますので、是非ご覧ください。



＜常設展示の見学＞

夏休み特別体験メニュー

小・中学校の夏休み期間に合わせて、7月22日(月)から8月25日(日)まで「夏休み特別体験」を実施します。

今年も、毎年好評の「弓矢体験」・「やり投げ体験」を行います。縄文人になりきって、弓矢ややりでの的を目がけて射てみましょう。大人も子供も熱中すること間違いなしの体験です。真夏の弓矢・やり投げ体験で、ヒートアップしてみてもはどうでしょう？

また、普段見ることのできない、まほろんの裏側を見学する「バックヤードツアー」もあわせて開催します。まほろんが誇る県内の発掘調査資料を保管する収蔵庫に足を踏み入れ、本物の土器を見て触れる、大人気のメニューです。発掘調査で出土した土器を、見て触れることのできる体験は、きっとみなさんの貴重な体験になるでしょう。

「夏休み特別体験」の詳細な日程は、ホームページと館内配布チラシ等でご案内します。通常、まほろんで行っていない体験ができる、またとない機会です。

みなさんのご参加をお待ちしております。

企画展示案内

指定文化財展「ふくしまの重要文化財 XI 古墳時代の馬具—いわき市中田横穴墓出土の馬具—」

会期：平成 25 年 7 月 20 日（土）～9 月 23 日（月）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

まほろんでは、平成 14（2002）年度から国や福島県が指定した重要文化財を紹介する指定文化財展を「ふくしまの重要文化財」として開催しています。いわき市「中田横穴墓」は昭和 44（1969）年 1 月に道路工事中に偶然発見されました。横穴墓の墓室である玄室内には、赤や白の顔料を使用して一辺が約 40 cm の三角文様が三段にわたって描かれています。我が国の代表的な装飾横穴として、昭和 45（1970）年 5 月 11 日に国の史跡に指定されました。

また、多量に出土した副葬品は、勾玉・管玉・青銅製釦などの装飾品、鉄鍬などの武器類やよろいなどの武具類、わが国最大級の金銅製



＜中田横穴墓の内部（いわき市教育委員会提供）＞

馬鈴をはじめ尻繫・鐙・障泥・鈴・胸繫・面繫などの馬具類、この他に土師器や須恵器などの土器類が発見され、多彩な出土品は昭和 58（1983）年 3 月 25 日に福島県の重要文化財に指定されています。



＜復元された馬具＞

まほろんは、開館以来の研究テーマとして金属器の復元を行ってきました。平成 17（2005）年度から平成 23（2011）年度にかけて中田横穴墓から出土した馬具一式の復元製作研究を行い、当時の馬具の輝きを今に蘇らせました。中田横穴墓から出土した馬具（尻繫・鐙・障泥・鈴・胸繫・面繫）や復元品を中心に、まほろんで行った中田横穴墓出土の馬具の復元研究の成果を紹介します。

なお、8 月 24 日（土）には、中田横穴墓の発掘調査や報告書作成に携わった馬目順一氏（福島県考古学会 顧問）によるまほろん文化財講演会「中田横穴墓と古墳時代の馬具」を開催します。

1 学期のおでかけまほろん

まほろんでは、館外体験事業として「おでかけまほろん」を毎年実施しています。「おでかけまほろん」は、県内小中学校や特別支援教育学校を対象として、まほろん職員が土器などの考古資料や、体験学習器材を携えて学校へ出向き、臨場感のある地域の古代史やその時代の暮らし、知恵・技術に関する体験学習を行うプログラムです。体験学習のメニューとしては、「いろいろな土器にさわってみよう」・「火おこしに挑戦」・「勾玉づくり」・「弓矢体験」などがあります。

今年度は、4 月から 1 月までの 10 ヶ月間で、昨年度より 7 校多い、47 校の学校（2 校が近隣の学校や、原発事故のため避難して同居している学校と合同）で実施するよう計画しました。1 学期は 27 回 29 校を予定しています。6 月までに年間実施予定校の半分を超える 27 校で実施しました。

6 月までに「おでかけまほ



＜「おでかけまほろん」の勾玉づくり（会津若松市立永和小学校）＞

ろん」を実施した学校を地域的に見てみると、県中地域（11 校：41%）と県北地域（10 校：37%）が多い傾向にあります。県中地域を市町村別に見てみると、郡山市が 4 校、須賀川市と田村市がそれぞれ 3 校、浅川町が 1 校となっています。郡山市の 4 校の中には、私立小学校では初めての実施となった、郡山ザベリオ学園小学校があります。また、緑ヶ丘第一小学校は郡山市で 1・2 を争うマンモス校で、156 名の児童のみなさんが「土器さわり」・「火おこし」・「弓矢」の体験を交替で行いました。県北地域では福島市が 4 校、伊達市が 3 校、二本松市が 2 校、本宮市が 1 校になります。福島市 4 校のうちの福島県立聾学校福島分校は 2 度目の訪問です。このほかに、福島県立須賀川養護学校にも初めて訪問し、勾玉づくりの体験学習を行いました。2 地域以外では、いわき市で 5 校の小学校で「おでかけまほろん」を実施しました。このうち、田人第一小学校は 3 度目の訪問ですが、近隣の貝泊小学校の 6 年生 1 名も加わりました。このように、「おでかけまほろん」は近隣の学校と合同で行う例もあります。会津地域では、会津若松市の永和小学校が初めて実施した学校です。

夏休みを折り返し点として、後半も様々な学校に「おでかけまほろん」は出かけていきます。予定学校のみなさん、楽しみにお待ちください。

文化財研修・講演会のご案内

7～9月の文化財研修・講演会について

7～9月の文化財研修は、2コースを予定しています。8月6日（火）～8日（木）は、教職員等発掘調査体験研修を実施します。会場は二本松市内の発掘現場で、基本的な発掘調査技術が学べます。9月4日（水）・5日（木）は、文化財保護指導者研修会を実施します。県内各市町村の文化財保護について指導的立場にある関係者の方々を対象とした、文化財に関する専門的な研修です。福島県教育委員会・国見町教育委員会との共催で、国見町を会場として行います。

シリーズ収蔵品紹介 16

菅内 37 号横穴墓出土の馬具

今回紹介するのは、白河市（旧東村）菅内 37 号横穴墓出土の馬具です。菅内古墳群および横穴墓群は、阿武隈川の右岸、標高約 300m の丘陵上につくられました。6 世紀後半から 7 世紀中頃までの前方後円墳を含む高塚古墳 4 基と横穴墓 54 基が、昭和 53 年の国営総合農地開発事業に伴い、発掘調査されました。盗掘を免れたため、死者とともに安置された副葬品が多量に見つかり、馬具も有機質のものを除けば、ほぼ全ての部品が揃っていました。これらは全て、鉄板に金メッキを施した薄銅板をかぶせる、「鉄地金銅張」という技法で作られています。

なかでも、馬を制御するために口にかませる轡に付けられた鏡板【写真右上】、馬のお尻を飾るための杏葉【写真右】は、古くから研究されて



＜鏡板付轡＞



＜杏葉＞

7～9月の講演会は、館長講演会と文化財講演会を各2回予定しています。館長講演会は、『北日本の縄文文化について』をテーマに年5回開催しますが、第2回を7月20日（土）に、第3回を9月21日（土）に行います。

文化財講演会は、8月24日（土）に外部講師を招いて「中田横穴墓と古墳時代の馬具」を開催します。装飾横穴墓としては著名ないわき市中田横穴墓についての講演です。9月14日（土）には「白河地方の考古学研究」を外部講師を招いて開催します。

各詳細は、開催日の約1ヶ月前に、ホームページや館内備え付けのポスター・チラシ等でお知らせします。みなさんの応募・参加をお待ちしています。

おり、鏡板・杏葉は、輪郭が棘のある葉の形にみえることから「棘葉形」と呼ばれています。内部の文様は、7



＜雲珠（復元品）＞

世紀初めの建立とされる法隆寺（奈良県斑鳩町）の仏像などの光背（聖人の体から発せられる光を表現したもの）が基となっていることが想定されています。

金銅製品などの貴重なものは、都（当時は飛鳥）で生産・管理されていたため、本横穴墓出土の馬具は、7世紀初め頃に、奈良の地（飛鳥）で、当時最先端の技術と仏教美術が融合してつくり、白河にもたらされたと考えられます。

現代でも人々を魅了する黄金色の輝きは、当時これらの馬具を装着した馬に乗り、人々の眼前を進む人物の権威を一層高めたことでしょう。

なお、当館では、本横穴墓出土馬具の実物と当時の姿に復元製作した馬（模型）に装着したものを常設展示で公開しています。また、7月20日から「指定文化財展」として、いわき市中田横穴墓（6世紀後半）出土馬具の展示を行います（9月23日まで）。両者の馬具の形や文様などの違いをご覧いただければと思います。（学芸員 和田伸哉）

まほろんからのお知らせ

夏休みは無休です

7月22日（月）～8月25日（日）の期間中、まほろんは月曜日も開館いたします。

楽しい体験メニューを盛りだくさんに用意しています。ぜひ、ご来館ください！



ご利用案内

開館時間	9：30～17：00（入館は16：30まで）
休館日	月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～1月3日）
入館料	無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）
その他	団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。